

令和5年度 市政ふれあい懇談会
市長あいさつ、伊達市の6つのまちづくりの説明 要旨

皆さんおばんでございます。本日はお疲れのところ、お集まりいただきましてありがとうございます。皆さんには日ごろから市政発展のためにご尽力をいただいておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この懇談会の目的は、伊達市の重点政策についてご説明申し上げ、それについて皆さんから様々なご意見をいただき、そのご意見をしっかりと市政に反映していきたいと思っております。

まずは伊達市の最近の動きについてご説明申し上げます。新型コロナウイルス感染症が3年にわたって続き、今年の5月に行動制限が解除されまして、いろいろなイベントや祭りが盛んに開催されています。(各地区の祭り等開催状況の説明)

2年続けて起きた地震で、昨年3月に被災した「伊達橋」について、10月29日に仮橋が開通しました。仮橋は20トン荷重の車も通れますので、今まで通りの通行が可能になってきたと思います。通行止めは、国道399号線は本当に車が通らない状況で、周りの商店や地域の皆さんが非常に苦勞されたと考えています。国道4号線に出るのにも遠回りをしなければならないために時間がかかったり、一部のところに車が集中して、安全性の問題もあったところが解決したと思っています。本橋はあと2年くらいかかるということですが、通行ができるようになって本当に良かったと思っています。

スポーツでは、市町村対抗ソフトボール大会で伊達市チームが優勝しました。選手たちは「一戦必勝」を合言葉に、第10回大会で栄冠を勝ち取ったということで、各地域からも多くの選手に出場していただき、活躍していただいたと思います。文化・スポーツ活動が活発になるということは、市民の皆さんの心の活性化が進むと思いますので、文化・スポーツ活動への支援も市でしっかりしていきたいと思っております。

伊達市の課題についてご説明申し上げます。全国的な課題ですが、少子高齢化、人口減少が大きな課題となっています。令和2年の国土調査では伊達市の人口は58,200人ということで、6万人を割っています。5年前の平成27年の国土調査では64,200人でした。4,200人の減少であり、率にして6.7%の減少です。地域によって違うと思います。増えているところもありますし、減少率の大きいところもあります。伊達市全体として6.7%の減少ですが、福島県全体では減少率が4.2%ですので、県全体でみても伊達市の減少率は大きいということです。高齢化率は36%です。5年前は33%でしたので3%上がっています。県全体は32%ですので、高齢化率も進んでいるということです。人口動態について、国、県、同じような考え方で統計を取るのですが、伊達市でどの世代が人口減少しているのかというと、20歳～29歳が減少しています。増えているところは、0～1歳の人口が増えています。また、10歳～19歳も少しずつですが増えています。30歳～49歳も増えています。20歳～29歳が大きく減少しているという状況です。人口状況の考え方は、5歳ごとに人口を分け、その人たちが5歳後にどうなっているかを見ます。令和元

年の0歳～4歳が1,754人いました。5年後、その0歳～4歳は5歳～9歳になります。5年後の令和5年には2,026人になっていますので、272人が増えていることになります。増えているということは、一度どこかに出て行った人が帰ってきている、またはどこかから移住してきているということです。子どもたちは増えている、子育て世代も増えているということですが、減っている若い世代をこれからどうしていくのか、どうして減っているのかが重要になってきます。この世代は学校に行く、または首都圏で就職するなどして減っていると思います。子育てをするときに、伊達市に家を建てる、伊達市に移住する人たちが多くなってきているというのが今の状況です。(増えた)272人というのは伊達市全体の数なので、地域によって大きく増えたところもありますし、あまり増えていないところもあります。増え方は大きくないですが、増えていることは確かです。ただ皆さんが「減っている」と感じられるのは、移住してくるよりも出生率が下がっているということです。生まれてくる子どもが少なくなっているということで、全体的に子どもたちの数が減っているのではないかとということになります。伊達市で産み育てるという環境をしっかりとつくっていかなければならないと考えています。ひとつは産婦人科の話になります。産婦人科を市としてつくれるかということ、先生方の数も必要ですし難しい状況です。伊達市としてはある程度大きなところにお任せして、受診するときの利便性をしっかりと支援していくことが重要だと思っています。少子高齢化、人口減少に対してどうするかということ、20歳から29歳の若い世代のために、働く場所をしっかりとつくるのが重要だと思っています。戻ってくるために必要な条件として、ここで生活ができ収入が得られるかどうかだと思います。また、子育ては充実しているか・不安はないかということが若い人たちの一番の関心だと思います。「働く場所」と「子育て支援」が大きな2つの課題だと思います。伊達市では課題を解決するために令和5年から令和14年までの10年を「第3次総合計画」の期間と定めて計画をつくりました。皆さんにお配りした6つのまちづくりが具体的な内容です。「人と緑と歴史が結び合う ひかり輝く田園空間 伊達市」ということを伊達市のイメージとしてとらえて目指していきたいと思っています。伊達市の宝としての人、緑は自然のことです。そして歴史、伊達氏発祥の地や北畠顕家が霊山に国府を開いたという深い歴史があります。これらの宝を結び合わせまして、自然と都市部が調和する伊達市を作っていきたいと思っています。都市部で生活するよりも自然豊かなところで子どもたちを育てたいという子育て世代が多くなっているのも事実なので、そういうまちをつくっていきたいと思っています。ただ、自然が豊かで農業が盛んなだけでは人は来ませんので、便利さがなければならないので、田舎と便利さを合わせて「便利な田舎」をつくっていきたいと思っています。

■安全・安心できれいなまち

伊達市は令和元年の東日本台風で大きな被害が出ました。災害に強いまちというのが絶対的な条件です。あの災害を教訓として排水ポンプ2台を購入しました。雨が降った

時にいつでも排水できる体制をとっています。排水をしない限り早い復旧はできません。避難もできませんので、排水ポンプ車を設置しています。自主防災組織の「自助・共助・公助」の中で、共助で助け合う必要があるため、自主防災組織を作っていただくよう進めています。組織率は伊達市としては62%です。また、先日ワンコイン浸水センサを県内で初めて導入しました。500円玉くらいの大きさのセンサーを浸水しやすい場所に設置しまして、浸水したときにセンサーが反応して、どの地域でどのくらい浸水したかが分かる仕組みになっています。（町内の設置箇所を説明。）試験導入のデータを見ながら、市全体にセンサーを設置していきたいと考えています。

■ 健やかでやさしい健康・福祉のまち

伊達市では元気づくり会を実施し、今現在131の団体が活動してくれています。自分の体を動かして健康になることもあります。それ以上に集まった人たち同士で会話をすることが一番の健康づくりだと思います。体の健康だけではなくて心の健康づくりとしてしっかりやっているところです。県内では伊達市と大玉村で実施していますが、もっと広がってほしいと思っていますので、伊達市外にも広げるための取り組みをしていきたいと思っています。平成23年に伊達市は「健幸都市宣言」をしています。「幸せは健康から」ということで宣言しました。健康は何からできるかという「歩くこと」です。人はなかなか歩きません。どうしても車や公共交通機関を使ってしまう。歩ける場所をしっかりと歩くことを基本にして健康づくりをするということで「健幸ウォーク」を開催しています。5月にはやながわ希望の森公園を中心に開催しましたし、11月には高子駅北地区や高子二十境を中心に健幸ウォークを開催しました。歩くことを基本に健康づくりをしていくということで、健幸都市宣言に基づいて、健幸ウォークをやりたいと思います。

■ 未来を拓く人を育む教育・文化のまち

子育て環境を充実させることは若い人たちの移住につなげるということになります。また、若い人や子どもばかりではなく、生涯学習として高齢者も学習をしていこうという構想を立てています。

伊達市では「伊達市版ネウボラ」ということで、妊娠期から就学期まで一貫して切れ目のない支援をしています。国でも今年から切れ目のない支援を進めていますが、これは伊達市がやっているものを国が参考にしてやっています。伊達市の担当が国に呼ばれて、その話をしたり、霞が関から伊達市に来て、どういう取り組みをしているかを調査したりして今回制度をつくり始めたということですので、先駆けている伊達市としては、さらに上を行きたいと思っています。

それから、ICT教育・デジタル教育を進めていかなければならないと思います。これからの世代はデジタルにしっかり慣れていかなければなりません。デジタルやICTやSNSは

避けて通れません。今の子どもたちはスマホは使えますが、キーボードは叩けないんですね。キーボードを叩けるような教育をしていかなければなりません。子ども1人1人にタブレットを渡して、学校でもタブレットを使えるようにしています。また、プログラムを作れなければならないと思います。自分が作った命令で何かが動くということを実際に見ながらやっています。旧伊達町にある㈱リビングロボットが開発した小さなロボットを動かすのにプログラムを作って、ロボットが歩いたり、手をあげたり、逆立ちをしたりというプログラミング教育を、今すべての学校で進めています。こういった教育をしっかりとやることで、プログラムということをこれからの子どもたちに教育していきたいと思います。

それから、生涯学習の話をさせていただきたいと思います。各地域で文化活動・芸能・芸術活動を行っています。今それぞれの地域で文化祭が行われています。生涯学習は非常に重要だと思っています。仕事をしているときはなかなかできないことですが、仕事が終わって余力ができた時に何かやる必要があると思いますので、そういう文化・芸能・芸術活動に対して市でも支援をしていきますし、活動を支えていきたいと考えています。

■活力とにぎわいあふれる産業のまち

移住定住に一番重要なのは働く場所です。受け入れ先としては農業がありますし、商工業があります。農業は全国に誇れる桃やきゅうりやあんぼ柿がありますし、県内で生産量が一番多いイチゴやシャインマスカットがごさいます。そういった特産品を伸ばしていくことが重要だと思っています。今はまだいいのですが、これから5年後、10年後、経営者の確保が厳しくなるのが現状です。新規に参入できる人を増やしていかなければならないと思います。農家の子どもさんが継いでくれることが必要ですが、産業として考えたときに、世襲制よりも新しく入ってきた人たちに対してしっかり支援をしていくことが重要だと思っています。普通は40歳、45歳、50歳までの制度資金というものがありますが、それ以外の新規参入者に対して、伊達市独自で資金の提供をしています。土地を買ったり機械を購入したり、研修を受けたりのほか、最初の3年～4年は経済的にも厳しいということで生活資金を保障したりと、リスクを少しでも和らげるような体制を整えています。これは他ではやっていないのですが、伊達市として取り組んでいますので、これからも充実させていきたいと思っています。

それから、新工業団地が保原工業団地の南側にできました。造成し売り出しまして、すべて完売しています。そこを買った企業が工場を建て始めています。資材の関係で若干遅れ気味ではありますが、立地的に非常に便利なところなので、企業はできるだけ早く操業を始めたいということで頑張らせていただいています。また、大型商業施設については伊達の堂ノ内地区に造成を終わらしまして、これから建築となります。相当数の雇用が見込まれます。若い人たちの就職の場所ということにもなると思います。また、そこ

に来たお客さんにどうやって伊達市内・県北地域全域を回遊してもらって、お金を落としてもらうかということは今検討していて、イオンと話しをしながら具体策を進めていきたいと思います。

伊達市の観光として進めなければならないのは歴史だと思っていて、それを掘り下げていく必要があると思います。伊達氏発祥の地ですし、梁川は上杉、松平、江戸の最後には松前と、非常に深い歴史があります。歴史を発信するほか、歴史が好きな人に来てもらって、歴史探訪をしてもらうということが重要です。伊達氏梁川遺跡群として史跡指定されたところは、これから整備を進めていかなければと思っています。文化財の整備はすぐには進められません。今年と来年で保存活用計画を作成します。計画を国に提出して認められたら発掘調査をします。発掘調査をしないと正確なことがわかりませんので、発掘調査ののち具体的に実施設計をして、こういった史跡公園にしていくのかを検討していきます。来年、再来年にできるかというところはいきませんが、皆さんにいろいろな情報を出していただきながら、共有していきたいと思っています。発掘調査をしたときに、こういった遺跡がでましたなど、発掘調査の状況を皆さんに見てもらって、史跡の重要性を公開していきたいと思っています。みんなで伊達氏の歴史を確認しながら、素晴らしいものがあるということを共有しながら外に発信していくことが重要だと思っていますので、ご協力をお願いします。

■便利で快適に暮らせるまち

定住には便利さが必要だと思っています。豊かな自然だけでは人は住めないと思います。便利な暮らしの中で一番重要なのは高齢者の足の確保だと思っています。免許の返上をお願いせざるを得ない状況の中で、病院や買い物に行くには車が必要なのが現状です。これを解決するために、まちなかタクシーの運営主体と話を進めています。将来的には伊達市内で運営主体を一つとし、来年、再来年というわけにはいきませんが、できるだけ早く、皆さんが使いやすいデマンド交通にしていきたいと思っています。

また、便利に暮らせるまちには、デジタル化は避けて通れないと思います。多くの皆さんがスマホを使っていますが、使いこなすのが難しい人や慣れていない方には、伊達市としてスマホ教室を開催しています。例えばラインを使うことでお孫さんや子どもさんと通信もできますし、映像でのやり取りもできるということで、便利なうえに心の交流もできますし、デジタルデバインドというのですが、不慣れな人への対策をすすめていって、みんながスマホで会話をしたり、スマホを使って市の手続きがオンラインでできるように進めていきたいと思っています。

■みんなでつくる協働のまち

地域づくりは市だけでできるものではなく、皆さんの力が必要です。自治会の活動を活発にしていくことが重要ですが、今、高齢化していてなかなか後継者が見つからない

というのが現実です。働く世代が60歳で引退ではなく65歳や70歳が定年となったとき、70歳の定年の後に自治会活動をするのは難しくなるのではないかと考えます。そこで、自治会活動をお手伝いできる、地区の方策を考えるために、集落支援員を各町に今は1名ずつですが配置しています。集落支援員が自治会の支援や、集落の課題を調査しながら皆さんを助けられたらいいと思います。来年以降、集落支援員を増やして、少しでもきめ細やかな支援ができる体制をとっていきたいと考えています。

協働のまちに重要なのは男女共同参画だと思います。女性が活躍できる社会が求められています。しかし、男性は外、女性は内という固定観念があり、集落の中でもその考えが抜けないということがあります。女性が活躍できるまちをつくっていくことが活性化につながりますし、女性が働くことによって経済活動も盛んになると思いますので、働き方改革や意識改革、女性の登用を進めていくことが必要だと思います。市でも女性の登用を進めていますし、市で行う審議会にできるだけ女性を登用して、女性の意見を取り入れていくことを進めなければならないと思います。

また、情報を発信することが必要だと思います。伊達市はどこにあるの？となかなかイメージできない場合もあると思います。高子駅北地区に住宅団地をつくりましたが、その中に交流施設「U-プレイス伊達」を民間の力を借りてつくりました。皆さんが集まって話をする場所やレストラン、移住定住の相談や健康相談ができます。みんなが集まって交流できる場所のほか、お試し居住ということで、伊達市がどんな場所か1泊2泊できる1軒家をつくりました。そこから情報発信をして移住定住につなげていきたいと思っています。

情報発信に一番重要なのが広報紙で、毎月発行していて皆さんに市のイベントや情報をお届けしており、内容が充実してきていると思います。それは、取材の中で皆さんにいろいろな話を聞いて情報をいただいているからだだと思います。市外への発信ということでは、ふるさと大使として4組をお願いしています。サンドウィッチマンさん、高島英也さん、長沢裕さん、小林アリスさんです。長沢さん、小林さんはKFBの番組にも出ています。そういった発信力のある人に伊達市をご紹介していただいたり、イベントに参加いただいて伊達市の良さを発信していただいています。そうして伊達市の魅力を皆さんに広く知ってもらうことが重要だと思います。市民の皆さんに宣伝部長になってもらったり、だてフォト部として写真を撮って自分の活動の中でSNSで発信してもらったり、できるだけ外に出てPRしたりすることが必要だと思っています。

伊達市の特性は自然だったり歴史もありますし、立地的な条件、東京からも仙台からも近いという条件をしっかりと出して、伊達市はいいところだねということを確認してもらえるようにしていきたいと思っています。市民の皆さんも地域のことを聞かれたときに「伊達はこんなところだよ」と発信できるようにしてもらえると一番いいですね。市民が伊達市はいいところだということ、住んでいる人たちが言える伊達市にしていきたいと思っていますし、私もそのために頑張っていきたいと思っています。

【各地域の要旨】

(伊達地域)

- ・災害のハード面 阿武隈川の増水により内水が排水できなくなる。新堀川、箱崎の彼岸、志和田(荒町)の彼岸の大きさが小さいため、川の水位が上がっていても吐ききれないために増水してしまう。国交省に要望し、新堀川、箱崎は昨年改修した。志和田の彼岸は県に要望し、早期改修を目指す。
- ・伏黒の伊達ひかりこども園の開園に向けて整備を進めている。R6.4 開園予定。
- ・伊達小学校 R5.12 完成 年末年始に引っ越しし3学期から新校舎で学習。卒業式も新校舎で行う。併せて放課後児童クラブを建設した。
- ・大型商業施設の開業に伴う雇用の確保と伊達市内の周遊施策を進める。交通渋滞対策としてイオンと協議して誘導をしっかりとしていく。県と協議して県道を拡幅する。国道は河川国道事務所に要望して右折レーンを100mから200mに延長して対応していく。
- ・旧公民館跡に多世代交流施設 R6.4 オープン
- ・伊達総合支所建設改修計画 現在の場所にR5基本設計 R6~7実施設計 R8開所を目指す。

(霊山地域)

- ・夏に霊山太鼓祭り、秋には霊山紅葉まつり、霊山登山する方も多くなっているのかと思う。道路に駐車しないと登れないような状況になっていて活気が戻ってきたと感じた。
- ・北畠頭家を歴史の目玉として発信したい。北畠が足利尊氏と対抗するときに伊達氏が助けたという歴史的なつながりを確認しながら、伊達市の歴史ということで発信していきたい。
- ・霊山総合支所の新築については、R6~7に工事を実施しR8の開所を目指す。場所は、体育館・中央交流館がある霊山中央交流館隣のこの場所と考えている。

(保原地域)

- ・8月のサマーフェスティバル、9月のももの里マラソン、10月の太鼓山車の競演が行われ、特に子どもたちが多く参加したと感じ、市として活気が戻ってきたと感じている。
- ・市内各地にワンコイン浸水センサを設置している。保原地域はアンダーパスが多いので、そこに14か所設置している。
- ・保原工業団地に新しい工場の建設が始まっている。立地条件が良いので進出してもらえたと考えており、相当数の雇用が確保できると思っている。

(梁川地域)

- ・伊達のふるさと夏まつりが行われ、花火もあがり、阿武急の梁川駅前にこれだけ多くの人が集まるのだなと驚いた。まちの駅を中心に「春まつり」「夏まつり」が行われ、昔の遊び、輪投げや金魚すくいなどを子どもたちが体験をし、貴重な経験をさせてあげられたと感じ

た。

- ・ 2年連続の地震被害について、梁川地域からは伊達崎橋が一番通行が多くなるかと思う。20トン荷重、大型車が通れない状況になっている。国で設計を進め、伊達橋と同じように権限代行・国の事業として進められると聞いている。先日国交省に赴き道路局長と面談し、早く方針を決定し設計・施工に入ってほしいと伝えた。
- ・ 梁川は自主防災組織の組織率が100%と、防災意識の高い地域だと思っている。東日本台風では大きな浸水被害が起きたが、自主防災組織の皆さんが声掛けをしてくださったので犠牲者が一人も出なかった。これからも地域の中で組織を強化してほしい。
- ・ ワンコイン浸水センサを、「まちの駅やながわ」「梁川福社会館」「梁川認定こども園」に試験的に導入している。
- ・ 梁川バイパスが開通し、中央線も整備がされ、電柱のない非常にきれいな都市計画道路ができている。開通時には、道路を歩行者天国にし、まちの駅を中心にイベントが実施された。単にきれいで通行が楽になっただけでなく、道路をイベント会場に使うようなことを商工会と連携しながら進めていきたい。
- ・ 国道349号については、丸森側、宮城県側は着々と進んでおり、福島県側についてもルートは大体定まったというところ。現道だけでは進まないの、周辺の土地を提供いただく場合もあるし住宅地にかかる場合もある。皆さんの決断が必要だと思っている。提供いただく方や移転を余儀なくされる皆さんに心から感謝を申し上げ、県が事業主体だが、市でも早期に開通できるように進めていきたい。

(月舘地域)

- ・ 春の月舘あじさい小径まつり、夏には小手の里夏まつりが開催され、夏まつりでは花火があがり、活気が身近に感じられ素晴らしいと感じた。
- ・ 自転車と泊まれる宿、「おての里きてみ〜な」が10/28にオープンした。旧小手小学校をリノベーションし、自転車と泊まれる宿をコンセプトにしている。県でもサイクリングを盛んにしよう取り組みを始めており、県との連携を図り月舘地域をサイクリストの集まる場所にしていきたい。月舘地域は、県で地域ごと（県北県中相双いわき）に作るサイクリングコースの結節点にあたり、サイクリストがほかに移動するときに休憩したり宿泊したりする場所になるのかと思っている。市内ばかりではなく市外からも来てもらえるような施設にしていきたい。
- ・ 「おての里きてみ〜な」はサイクリングだけではなく、地域の交流ができるような場所も作ったので、月舘地域の皆さんの交流の場にしていきたい。
- ・ 月舘学園中学校の吹奏楽部が県の大会に出場して素晴らしい成績をおさめられ、「きてみ〜な」のオープンの際にも演奏を披露してもらったが、子どもたちのがんばりを地域の皆さんに紹介できた良い機会となった。